

## 『チーム啓明 ～ 信頼で結ぶ学校』

『自ら学ぶ意欲』と『自らを律する心』をもつ生徒を育成するために

教育活動	具体的な実践内容
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間のバランスを計り、相互の関連を明確にした教育課程を編成し、<b>①授業時数を確保</b>できるように計画的に実施する。</li> <li>○ <b>②数学科</b>で<b>少人数指導・習熟度別学習・TT指導</b>を実施する。</li> </ul>
組織・運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 報告・連絡・相談の徹底を図り、分掌間、学年間の連携・協力を強化し、『チーム啓明』として教育課題の解決を図る。</li> <li>○ 前年度踏襲にとらわれずに、創意ある工夫と運営・改善に努める。</li> </ul>
学級・学年 経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級・学年の所属意識を高め、一人一人が自己有用感を感じられる一体感のあるチーム作りを行う。</li> <li>○ 生徒の自主的、主体的活動を大切にし、リーダーとフォロアーを意図的、計画的に育て、自浄能力の高いチームをつくる。</li> </ul>
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習相談の充実と生徒によるきめ細かい<b>③授業評価</b>を実施し、専門職としての責任と義務を果たす。</li> <li>○ 基礎・基本の定着と言語活動の充実を図る<b>④授業改善</b>を推進し、<b>⑤家庭学習</b>の習慣化と<b>⑥放課後学習</b>のさらなる充実に努める。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全教職員が生徒一人一人の担任であることを意識し、ていねいな関わりを大切にしながら、いじめ防止・不登校ゼロをめざす。</li> <li>○ 生徒や保護者向けの専門的な講師による<b>⑦講習会</b>を継続する。</li> </ul>
特別支援 教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 6組との<b>⑧交流学习・指導</b>を積極的に推進する。</li> <li>○ 通常学級における個別に支援を必要とする生徒のために<b>⑨教師を配置</b>し、個に応じた指導を充実させる。</li> </ul>
道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学年ごとに<b>⑩道徳推進教師</b>を配置し、道徳の時間を<b>道徳教育の要として時数を確保し</b>、全教育活動との関連を意識した指導を計画的に行う。</li> <li>○ 地域行事への参加や<b>⑪ボランティア活動</b>を通し、地域の人たちに感謝し、自ら挨拶できる生徒を育てる。</li> </ul>
開かれた 学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常的に学級・学年通信により情報を発信し、学級懇談や三者懇談等で相互に情報共有し、信頼関係を構築する。</li> <li>○ 異校種間や他団体との連携を図り、体験学習や出前授業を積極的に取り入れる。</li> </ul>
総合的な 学習の 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学年の発達段階に応じて、自ら考え、学び、論理的に課題を解決する力を一人一人に身に付ける。</li> <li>○ 『進路学習』を通して、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力など、確かな学力を育成し、自己選択・自己決定できる力を養い、生徒一人一人の自己実現をめざす。</li> </ul>
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする主体的、実践的な態度を育てる。</li> <li>○ 生徒の主体的な活動を生かした<b>⑫生徒会活動</b>を通し、集団への所属感や連帯感を深め、望ましい人間関係の形成や公共の精神を養う。</li> </ul>

## < 補 足 説 明 >

- ① **時数の確保** : 悪天候やインフルエンザによる臨時休業が増えることを想定し、時数管理を計画的に進める。喫食日数の足りない分は家庭訪問習慣で消化する。
- ② **少人数指導** : 数学科で2学年は等質2グループの『**少人数指導**』を2コマ、行う。1・3学年**習熟度別学習**は『**TT指導**』を2コマ、3学年は『**TT指導**』と数学科教師による『**習熟度別TT指導**』を1コマずつ行う。
- ③ **授業評価** : 今年度の授業評価をもとに、板書の仕方や授業を進めるスピードなど、生徒による『**きめ細かな授業評価**』を実施する。
- ④ **授業改善** : 校内研修のさらなる充実を図りながら、今年度定着した『**めあて**』『**まとめ**』に加え、『**振り返り**』のある授業改善に取り組む。
- ⑤ **家庭学習** : 全体指導と下位層への個別指導のバランスをとりながら、家庭学習の『**習慣化**』から仕方や時間などの『**内容**』にも重点を置いた指導を行う。
- ⑥ **放課後学習** : 放課後学習室を開設し、下位層が安心して補充学習ができる環境を作る。  
(苫小牧市特別支援教育支援員・退職人材活用の加配申請中)
- ⑦ **講習会** : 従来の警察署による指導だけでなく、情報教育に関する専門家を招聘し、生徒への講習会や保護者・教職員のための学習会の開催を継続する。
- ⑧ **交流学習** : 今年度の取組を土台に、交流学習をさらに推進する。①6組の生徒が芸体教科を中心に交流学級で授業を受ける ②通常学級の教師が6組の生徒に専門的教科指導を行う ③6組の教師が通常学級の授業を行う。(新入生は①へ移行)
- ⑨ **教師の配置** : 通常学級で特別な支援を必要とする生徒を支援するために、学年ごとに担当教諭・時数を確保する。
- ⑩ **道徳の時間** : **研修部を3名体制**にして『**学年ごとに道徳推進教師**』を配置し、H31年度の教科化に向け、研修部を中心に『**私たちの道徳**』の活用方法や資料等の準備を進める。また、他の教育活動との関連を精査し、年間計画や別葉を策定・実行する。
- ⑪ **ボランティア** : 部活動単位で行われた校区の清掃活動や福祉施設への慰問を継続し、その輪を全校的な取組に広げていく。
- ⑫ **生徒会活動** : 『**通信機器10か条**』の定着に向け取り組むとともに、生徒が主体的に活動する新たな取組を通し、自治能力の高い集団を作る。